

令和7年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに、助詞や長音、促音や拗音などを正確に使うことが苦手な児童が多い。 物語の感想や自分の考えや感想などを、発表したり、友達に伝えたりする経験の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の学習の中で、教科を横断して、文章で表現させる場面を多く設定し、正しく書く経験を積ませる。【表現】 意図的に自分の考えを伝える時間や発表する時間を設定した授業を計画する。【対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算能力はついてきたが、文章問題から自分で立式することを苦手としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を多く取り組ませ、「合わせて」「全部で」の「足し算ことば」や「残りは」「ちがいは」の「引き算ことば」を意識して文章を読むことができるようにする。【決定】 絵をかいて、文章問題の状況を理解させるようにする。【表現】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> アサガオの観察時、発見したことを自分の言葉で書くことを苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察時の視点を明確にしながら、様々な表現の言葉があることを全体で確認して板書し、自分の思いと近い言葉を選んで書けるようにする。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌を歌う時の声が全体的に小さいと感じることが多い。 鍵盤ハーモニカの演奏をする時に、タンギングがうまくできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自信をもって歌えるよう、該当の歌を聴く時間を増やしたり、歌う回数を増やしたりする。【表現】 ホースなしで「トゥー」と言う練習をしたり、正しいタンギングと、そうでない音を聞かせたりして、練習を繰り返す。【発見】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 「自分のからだをかく」ということについて難しさを感じている児童が多い。 手先の器用さについて、児童によって差が大きく、はさみを使用した時の切り方やのりの貼り方に大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のからだを観察し、頭→首→からだ等、順番にどことどこが繋がっているか、関節はどこか等を言語化する。【発見】 はさみやのりの使い方を確認したり、使用する機会を増やしたりする。【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことに対して意欲的な児童と消極的な児童と二極化してしまっている。 体を滑らかに動かせず、ぎこちない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びを取り入れ、体を動かすことの魅力を伝えていく。【発見】 子供たち同士の関わり合いの機会を増やしていく。【対話】 体育の時間の導入時に感覚遊びなどを行い、体に刺激を与えていく。【発見】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の思いや考えを事柄の順序に沿って構成を考えたり、読み手に分かりやすい文章を書いたりできる児童が少ない。 ・助詞や句読点、かぎの使い方を理解して、正しく使うことができない児童がいる。 ・既習の漢字を使った文を書く意識のない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを読むときにも意識させる。一番伝えたいことが何かを明確にする構成カードを活用したり、書いた文章の推敲を丁寧に指導したりする。【発見】【表現】 ・書いた文を読み直し、文中で正しく表現できているか確かめる機会を多くもたせる。【表現】 ・新出漢字の練習の際に作文を取り入れたり、教科書「漢字の広場」を丁寧に指導したりする。【発見】【表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりがある計算を正しく処理できない児童がいる。 ・文章題で立式ができなかったり、間違えた式のまま計算をしたりする児童がいる。 ・単位の量感覚が乏しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりの意識付けをしたり、朝の計算タイムを活用して繰り返し練習したりして習熟を深める。【決定】 ・問題文を絵や図で表したり聞かれていることに線を引かせたりして、理解できるようにする。【表現】 ・ペットボトルや水筒などの実物を活用したり日常生活と結び付けたりして、体感的に理解できるようにする。【発見】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な方法での植物の世話を習慣づけられなかったり、途中で飽きてしまったりする児童がどのクラスにもいた。 ・活動を楽しむことはできるが、その活動から願いや思い、気付きなどを言語化して記入したり伝えたりすることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な単元や、個々の活動がある単元では、全体で振り返りや比較する時間を設け、児童の意欲が継続するように授業計画を立てていく。【発見】【対話】【決定】 ・気付きのきっかけになるような視点を提示したり、板書の際に視点ごとに整理したりして児童が考えられるようにする。また、国語の学習と結びつけながら書くことができるようにする。【発見】【対話】【決定】【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカのタンギングや運指、打楽器の演奏に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運指は手の位置のポジションがわかるように板書やビックパッドに提示する。タンギングの練習になるような曲を取り入れて、正しく演奏する練習ができるように計画していく。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、じっくり作品を作ろうとする児童が少ない。 ・はさみや糊などを適切に使えないため作品を作ることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の相互鑑賞、単元の途中での振り返りをし、最後まで丁寧に取り組めるようにする。【発見】【対話】【決定】【表現】 ・普段から、糊やはさみを使って十分に慣れさせるようにする。また、図工の際には、動画やイラストなどで使い方の例を提示する。【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験に差がある。 ・運動に意欲的ではない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で関わり合いながら体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動を帯で取り組み、運動の基本となる経験を積ませていく。【対話】 ・児童の能力に応じた場やルールを設定をし、運動の楽しさを実感できるようにする。【発見】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章に書かれている内容を読み取り、自分の考えをまとめて文章に表すことに課題がある。 語彙力が乏しく、自分の考えを伝えることに課題がある。 継続して正しい漢字を書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の目的に合わせて内容の中心が捉えられるよう、音読や書く活動を増やす。文章の書き方を提示し、考えを表せるよう指導していく。【表現】 ことわざや慣用語、故事成語など学習をしたり、友達との対話活動を通したりして、語彙力を増やし、自分の考えを伝える練習をする。【対話】 漢字ドリルを中心に継続的に練習をしたり、テストを通して成果を確認したりすることで、定着を図る。【表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをノートに記述したり、発表したりできる児童が少ない。 定規を正しく使い、直線を描けなかったり、コンパスを正しく使えなかったりする児童がいる。 文章問題を正しく読み、図を使って考えを表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに自分の考えを絵や文で書き、ペアやグループで発表する活動を増やす。【決定・対話】 計算タイムや隙間時間を活用し、作図課題を与えて練習させたり、児童の能力に合わせスモールステップで進めたりする。【発見】 文章問題の読み方の練習をしたり、文章と図を照らし合わせて読み取らせたりする学習を多くもつ。【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の経験不足により、自分の予想を立てることが難しい。 正しく実験を行い、結果を表やグラフを用いてわかりやすくまとめることに課題がある児童が見られる。 虫や植物に苦手意識をもつ児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで予想を話し合い、自分の考えと他者の考えを比べる機会を増やす。【対話】 友達の出した予想の中から自分の考えがどれに近いかなどを毎回考えさせる。【対話】 表やグラフの枠を示し、個の能力に応じてまとめ方を工夫させる。【表現】 虫や植物を身近に提示し、育てたり観察したりしようという意欲を喚起する。【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 方向感覚がつかめず、方位を確認しながら、地図を正しく読み取ることが難しい児童がいる。 施設見学後の新聞づくりやまとめ方に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学に出かける時や、地図帳を活用する際に、方位を確認させながら見学したり、地図帳を読み取らせたりする。【発見・決定】 見学を通して気付いたことを調べたり、友達と考えを交流したりして、いいまとめ方を提示しながら高め合わせていく。【発見・対話・表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽では、リコーダーの運指に課題がある。できる児童もいるが、個人差が大きい。 歌唱では、音程はあっているが小さな声で歌う児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 階名と運指を結び付けられるように個別指導の時間や児童同士で教え合う時間を設ける。【表現】 音楽の授業において、必ず歌唱の時間を取り、自信をもって歌えるように丁寧に指導を行う。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気を付けて用具を使ったり、材料や作りたいものに合わせて適切に用具を選んだりする技能が十分に育っていない。 自分で考えたことを作品で表現する方法が思いつかない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元や題材の特徴や意味を説明し、その作品のめあてが理解できるようにする。【発見】 表現方法や技法を実演したり、参考作品を提示したりすることで児童が選べる表現方法を増やす。【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に苦手意識をもち、運動意欲の低い児童が見られる。 持久力や用具操作など基本的な技能が身に付いていない児童が見られる。 ゲーム領域では、勝敗を適切に受け入れることができていない様子が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでルール決めたり、活動を工夫したりすることで、運動の楽しさを感じられるようにする。【発見・決定】 楽しみながら技能向上が期待できる運動を補助運動として取り扱っていく。【表現】 相手に対して敬意と感謝の気持ちを表せるようにしていく。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現する力に個人差がある。 ・漢字学習に意欲をもてない児童や、既習の漢字を使うことに対して、意欲の低い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫して、自分の考えがまとめやすいようにする。また、ペア学習やグループ交流で、表現することに慣れる。【表現】【対話】 ・ICTなどを活用し、ゲーム感覚で漢字の学習に取り組ませたり、漢字をすすんで使えるようにワークシートを工夫したりする。【表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の四則演算を十分にできていない児童がみられる。 ・知識や技能を応用して考え、表現することを苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則演算についてeライブラリーや計算プリントを用いたり、授業において四則演算を用いる問題があるときに、練習できる時間を確保したりし、習熟を図る。【表現】【対話】【発見】 ・授業において問題に対する自分の考えを書いたり、話したりする時間を確保し、交流し未知の解決方法に触れる機会をつくることで、考え、表現する力を伸ばす。【表現】【対話】【発見】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常経験が乏しく、身の回りの事象に疑問をもちづらい。 ・根拠を基にした予想を立てることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初に既習事項を確認したり、共通体験を行ったりするようにする。【表現】【対話】【発見】 ・自分の考えを書いたり、話したりする時間を確保し、解決方法に触れる機会をつくる。【表現】【対話】【決定】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から正しい情報を読み取れない児童が見られる。 ・資料の情報を活用して、自分の考えに生かすことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を正しく読み取れるように、他の教科でもグラフや表を活用して、資料の読み取りの機会を増やしていく。【表現】 ・グループ学習を通して、たくさんの考えを交流することで、友達の考えと自分の考えを比較しながら考えを深めていけるようにする。【対話】【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーを演奏するときの姿勢や基本的な持ち方がまだ身に付いていない児童がいる。 ・自分の感じたことや考えを全体で発言するのが特定の児童になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チョコツ、ピタツ、スツ」という姿勢を指導して、必要な時には毎回声をかけて演奏の姿勢が身に付くようにしていく。【発見】 ・全体での考えの共有の前にペアやグループでの伝えあう時間を設けて全員が自分の意見を友達に伝える経験を積み重ねるようにする。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを表現するために適切に材料・用具を選択して使うことが難しい児童がいる。 ・表したい内容を見つけることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や表現技法を導入で実演したり、作例を見せたりすることで定着を図る。【発見・表現】 ・様々な作例を例示したり、鑑賞の時間を設けたりすることで友達の作品からもアイデアを得られるよう指導する。【発見・対話】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識のある運動への取り組みが消極的な児童がいる。 ・走力や持久力が弱い児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できることを想起させながら、運動を工夫させる。また、個に応じた課題やめあてをもたせ、スモールステップで取り組ませる。【発見】 ・授業内で鬼ごっこ要素を取り入れた運動を取り入れたり、時間走を取り入れたりする。【表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を中心とした語彙力は個人差が大きい。 自分で考えたことを文章に表現するとき、意欲が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な小テストの実施により、漢字を覚える回数を増やしていく。分からない言葉があったら調べるよう指導する。【発見】 授業後の振り返りや行事後の作文などを通して、書く機会を増やす。また、作文用紙の使い方を段階的に指導する。【表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解くことができても、考え方を説明できない児童が多い。 文章題への苦手意識が強い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習の流れを捉えさせ、交流での学び合いの時間を意図的に設定する。また式から考え方を読み取ったり、図から式を読み取ったりする活動を取り入れ、表現力を高めていく。【表現】 文章題を絵や図に表してイメージ化させたり、演算決定につながるキーワードに着目させたりして、題意を正確に捉えられるようにする。【発見・決定】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に正対した実験方法を考えることが難しい児童が多い。 考察において実験結果を基に、学習問題に対する自分の考えを順序だてて表現することを苦手としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の際に、実験の手順や条件などについて話し合う時間を設定し、小グループでより妥当な実験方法を考えられるようにする。【対話・決定】 考察に必要な情報を整理したり、話型を示したりすることで、自分の考えを表現しやすくなるような視覚的な支援を取り入れていく。【発見・表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報だけを読み取り、言語化することが難しい児童が多い。 調べ学習の際にインターネットだけに頼ってしまい、必要な資料を探すことが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を考える際に、資料から読み取ったことを文章にまとめる活動を日常的に設定していく。【表現】 資料をある程度精選してから提示し、児童が必要な資料について判断し、選択する機会を設ける。【発見】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱において、歌声が小さいと感じることが多い。 思いや意図をもち、表現に生かすという意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動として発声練習を取り入れ、歌唱技能を習得させるとともに、友達と関わりながら楽しく歌える活動を取り入れ、意欲を向上していく。【発見・対話・表現】 表現する前にどのように表現したいかを考える時間を設け、表現後には振り返る機会をどの題材でも設定する。【決定】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 作品の主題や、思いに合わせた表現にしようとする意識が低い児童がいる。 構図や主題を構想する際、インターネットの画像や資料に頼りすぎる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例を多く提示して、実際の作品から表現の工夫や技法を共有する。【発見・対話】 参考にできる部分、自分で工夫する部分を明確に指導してから、インターネットで調べさせるようにする。【表現】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験に個人差があり、学習内容の理解や技能の習得に差が出ている。 学習したことを生活に生かそうとする意欲が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の選択や提示の仕方を工夫し、生活経験の不足を補う。技能の習得については、スモールステップを踏むと共に、個別指導を行う。【発見】 学習内容と生活のつながりから課題がもてるように導入を工夫し、学習後にはカードを活用して、家庭で実践する機会を設定する。【発見・表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 種目や内容によって、経験の差から技能の個人差が大きい。 運動に触れる経験が少ないため、該当の運動の特性を理解できなかったり、個人やチームの課題を見付けられなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人差を埋めるためにルールを工夫させる。よいルールの工夫について例を挙げ、どこが良いのかを発見できるような提示の方法を行う。【発見】 実際にやって見せたり、映像を見せたりして、望ましい動きや動きのポイントを共有するようにする。共有することによって、児童同士で教え合う授業を展開していく。【対話・表現】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットがおぼつかない児童もいて、英語への抵抗感が強く、習熟度の差が大きい。 フレーズを記憶することが苦手だったり、声を出したりするのが苦手だったりする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ基本を重視し、歌を歌ったり、交流し合ったり、体を動かしたりという中学年の外国語活動の良さを引き継ぐ。【対話・表現】 様々な支援をしながら、スモールステップでできることを増やしていく。英語に入る前段階の苦手を作らないように、手段として紙、PC、音声など多様に工夫する。【発見・決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なかったり言語化が難しかったりすることで自分の考えを伝えることに苦手意識をもつ児童が多い。 文章の組み立て方や適切な接続詞が身に付いておらず、まとまりのある文章が書けない。 習った漢字を普段から使おうとしないため、定着に繋がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝え合う前に自分の考えを整理する時間を十分にとる。様々な文章に触れることで語彙を増やしていく。【表現・対話】 文章を書き始める前に、筋道の通った文章になるよう「はじめ、中、終わり」を組み立てる。【表現】 定着のために漢字を使うよう繰り返し指導する。定期的に漢字テスト等に取り組む。【決定】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題提示から課題づくりまでが教師主体になる場面が多く見られる 問いに対する自分の考えをもち、論理的にノートに書いたり説明したりする力が乏しい。 出された意見の中から、様々な見方・考え方を駆使してよりよい考えを見つけようとする意識が育っていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじめに前時の復習を行い、新しい問題との違いを見つけさせ、課題につなげる。【発見】 自力解決の前に全体で解決方法の見通しをもたせ、全員が自分の考えをもてるようにする。小グループ→全体と、説明の機会を増やす。【表現・対話】 様々な考えを見える化し、視点を与えて、よりよい意見を見つけようという意識を育てていく。【決定】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から考察をする際に、仮説に対する答えのみを書き、それ以上の深まりがない。 学習内容と日常生活での活用がつかない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が見つけた新しい疑問や発見を取り上げ、そこから次の学習につなげることで、疑問や気付きを記述することを価値付けていく。【発見】 日常の中で活用されている場面を取り上げたり、活動として組み込めるものは組み込んだりして、理科の重要性を実感できるようにする。【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 政治や日本国憲法の学習内容が実生活でどのように生かされているのか、理解が難しい児童が多い。 資料を読み取り、予想したり、考えを導き出したり、筋道が通ったまとめをすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々のニュースや話題となっていることに触れながら、実生活と結び付けやすくする。【発見】 資料が何を伝えるものなのか、全体で確認したり、算数科でのグラフやデータの読み取りと連携させたりして指導をする。また、国語科での、書く活動や話す活動を生かしていく。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱はクラス全体では声が出ているように感じるが、口の開け方等の各自の歌い方には差がある。 器楽は各自の技能に差があるので、全体で同じ到達目標にして学習を進めることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動としての発声練習や発音練習などを取り入れて歌唱技能を定着し、歌う意欲を向上させていく。【発見・表現】 目標や学習方法を複数提示し、自分に最適な目標と方法で学習を進められるようにする。どの方法で学習を進めても全体での演奏には参加して楽しめるようにする。【発見・決定・表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を取捨選択、活用して、表したい感じに合わせて制作ができる児童と、苦手な児童がいる。 参考作品や、友達の作品から学び、自身の制作に生かす児童と、自分の制作に没入して周りに目が向かない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入の部分でこれまでの学習内容や技法を振り返ったり、活用した作例等を紹介したりすることで、児童に意識付ける。【発見・表現・決定】 制作途中での相互鑑賞や、作品の制作経過報告等の活動を常時的に取り入れていく。【発見・表現】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを家庭生活に生かそうとしない児童がいる。 学習時間内で技能の習得が難しい。 創意工夫に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休みに家庭での取り組みを記録したり、挑戦したりする機会をつくる。【決定・表現】 書画力メラを用いて手元が見えやすくする、PC で繰り返し動画を見ながら練習する、個別対応するなど、児童の実態に合った方法を選んで技能が身に付けられるようにする。【決定】 作品を見せ合ったり、考えを共有し合ったりする時間を設け、考えや表現の幅が広がるようにする。【対話】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動や生活の経験に差があり、技能の差があったり、上手くなるためのポイントを見付けられなかったりする児童がいる。 自分やチームの課題を解決するための方法を考えて話し合うことや、実践して改善することへの意識や技能に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画を考える際に、児童の実態に合わせた活動や場を設定するようにしたり、スモールステップで上達できるよう ICT 機器を活用したりする。【発見】 グループで活動する場面を多く取り入れて、児童同士の気付きを授業に取り入れる。【対話・決定】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度の個人差が大きいことで、苦手意識を強く持っている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじめに復習をしっかりとやり、毎回記憶の掘り起こしを行って定着をはかる。【発見】 ゲーム要素を加え、PC 上のみならず体を動かしながら楽しさや交流を重視した指導を心がけ、英語嫌いを作らないようにする。【表現・対話・決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。